

2024年3月22日

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書・ニュースレター用報告書（2023 年度採択案件）

1. 業務の概要	
(1) 案件名	自主夜間中学がつなぐ！「日本語学習支援の輪」育み事業 ～道東における外国人材受入支援強化のための日本語学習支援ボランティア養成・スキルアップ事業～
(2) 実施団体名	釧路自主夜間中学「くるかい」
(3) 実施期間	2023 年 8 月 15 日～2024 年 3 月 31 日
(4) 実施国	日本国内
(5) 活動地域	北海道東部（主に釧路・根室地域）
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>●道内の他地域同様、釧路・根室地域においても在住外国人が増加し、ベトナム、インドネシア、タイ、ネパール、ミャンマー、パキスタンなど、国籍も多様化してきた。 （2022.6 時点：釧路管内 1,648 人、根室管内 1,064 人／法務省「在留外国人統計」より）</p> <p>●同地域で暮らす外国人は受入事業所や町内会等とのコミュニケーション不足から、地域コミュニティでの居場所がなく孤立しがちな状況であることに加え、日本語学習ニーズが高まっているものの、日本語学習支援者が不足しており、日本語学習支援の場が少ないといった状況にある。 （現状、釧路市内で日本語学習支援を行っているのは当団体以外に、会員有志（有資格者不在）で日曜日に支援を行っている釧路国際交流の会、その他、細々と行っている個人の日本語教室が 2 つほどである）</p> <p>●近年当団体にも外国人の日本語学習支援希望に関する問い合わせが増加しているが、当団体においても日本語学習支援者が不足しているなど、当地域における外国人に対する日本語学習支援の環境及び体制が脆弱であるために彼らのニーズに十分応えることができていない。</p>

②活動の目標：

(6) ①記載の背景及び課題に関し、本事業を通じて、日本語学習支援に関わる人材を育成・養成し、在住外国人等に対する道東地域の日本語学習支援者の裾野を広げるとともに、日本語学習支援の輪を広げ、多文化共生社会の基盤作りに寄与していくことを目標とする。

<具体的な活動目標>

- ・日本語学習支援に関わる人材を養成・育成し、在住外国人等に対する道東地域の日本語学習支援の輪を広げる。
- ・コミュニケーション支援ツールの導入及び学習教材の拡充により、日本語学習支援を必要としている者に対する支援の質の向上を図る。
- ・道東地域における多文化共生社会の基盤作りに寄与する。

<本事業の展開後における期待される成果>

- ・日本語学習支援教材を拡充することにより、これまで支援対象としてきた「初学者～初級（前半）レベル」より若干日本語運用能力の高い「初級（後半）～中級レベル」の学習支援が可能となる。また、支援者不足が解消されることにより、「くるかい」での受入（学習支援）体制が改善される。
- ・コミュニケーション支援ツールを導入することにより、支援対象外国人の母国語等にて意思の疎通を図ることが可能となり、支援の質が向上する。とくに学習の際の理解度の向上及びインテーク（初めての相談対応）場面などでの高い成果が見込まれる。
- ・日本語学習支援者向け講座を通じ、参加者が様々な形態の日本語学習支援のあり方や具体的かつ実践的・効果的な学習支援方法について学び、地域の日本語学習支援活動に参画または個人のレベルで取り組める外国人支援及び外国人との協働に着手することが十分期待される。

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容：

★「在住外国人等を対象とした継続的な日本語学習支援活動の実施（原則、毎週火曜日）」

<中国人生徒（中3）への学習支援>

令和5年度の釧路自主夜間中学「くるかい」における在住外国人等を対象とした日本語学習支援活動対象者は、前年度（令和4年度）から支援を行っている釧路市内の中学校（3年生）の中国人生徒1名及びその母親（中国人）のみであった。※但し、母親は夫（中国人）の仕事の手伝い及び家事・育児等で多忙であり、参加したのは数回のみ。

活動日は「くるかい」活動日である火曜日。時間は当初17:00～18:30（90分間）で、会場は生徒が通う中学校の図書室または空き教室にて実施。※長期休暇時及び学校行事や学級閉鎖時は休止

当初（4月）は日本語学習支援活動のみを行っていたが、その後、保護者及び学校側から「5教科（国語、英語、数学、理科、社会）の学習支援に加え、高校受験対策にも対応いただきたい」旨の要望があり、「くるかい」で協議し、この対応を行うことで決定。

変更後（5月以降）は、時間を30分延長し、17:00～19:00（120分間）とし、17:00～18:00を5教科及び高校受験対策の時間に充て、18:00～19:00を日本語学習支援の時間としていたが、11月頃からは2時間のほとんどを5教科の復習及び受験対策に充てることとした。

令和5年度の日本語学習支援で使用した教材は『みんなの日本語・初級Ⅱ（第2版）』（スリーエーネットワーク）。当初は「くるかい」で調達した2冊のみだったが、世界の人びとのためのJICA基金により調達した追加分等により、学習支援の円滑化及び効率化を図ることができた。

道内の公立高校受験日である3月5日から年度末までは放課後の教員（管理職）対応が困難であること等による学校都合のため、中学校での中国人生徒への学習支援については、2月27日を以て終了。3月12日には「令和5年度くるかい修了式」に参加し、修了証書を受領。



<日本人の配偶者であるアフリカ出身女性の「くるかい」見学対応>

3月5日（火）、日本語でのコミュニケーションに課題を抱え、日本語学習支援を希望しているアフリカ出身の女性が「くるかい」（第2部 19:00～20:30）の活動の様子を見学に来たので対応するとともに今後（令和6年4月～）の支援に向けてのヒアリングを実施した。

この女性は2月17日（土）に実施した「日本語学習支援者養成講座（実践編）」の外国人協力者の一人であり、その際「くるかい」の活動内容を知り、「くるかい」が実施している学習会にぜひ参加したいとの申し出があったので、この日（3月5日）に見学及び面談を設定していた。

この女性は来日してから約9年になるが日本語の学習経験は無く、夫は日本人であるものの、日本語での意思疎通ができず、近所付き合いや親戚付き合いもほぼ無く、日本社会から完全に孤立していたような方であり、特別な福祉的ニーズが認められることから、「くるかい」では、令和6年度より、この女性への日本語学習支援を開始する方向で現在調整中である。

なお、ちょうど3月5日に、「日本語学習支援者養成講座」に参加されていた日本人1名も見学に訪れていたため、アフリカ出身女性の手承を取り付け、面談にも立ち会ってもらったなど、早速日本語学習支援の一端に参画する機会の提供も行った。

★「日本語学習支援教材の拡充」

以下①～⑨の書籍の調達を実施し、日本語学習支援教材の拡充を図るとともに日本語学習支援の質の向上及び効率化を図ることができた。※④、⑥、⑧は令和5年度、特に活用させていただいた。

- ① 「初級日本語文法と教え方のポイント」（スリーエーネットワーク）×1冊
- ② 「中級日本語文法と教え方のポイント」（スリーエーネットワーク）×1冊
- ③ 「改訂版どんときどう使う日本語表現文型 500」（アルク）×1冊
- ④ 「みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 教え方の手引き」（スリーエーネットワーク）×1冊
- ⑤ 「みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 教え方の手引き」（スリーエーネットワーク）×1冊
- ⑥ 「みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 標準問題集」（スリーエーネットワーク）×1冊
- ⑦ 「みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 標準問題集」（スリーエーネットワーク）×1冊
- ⑧ 「みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 本冊」（スリーエーネットワーク）×1冊
- ⑨ 「みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 本冊」（スリーエーネットワーク）×1冊



★「コミュニケーション支援ツールの導入」

(多言語音声翻訳機の導入及び活用を通じたコミュニケーション支援体制の整備)

ポケトーク及び付属品一式(@34,000円)を2セット調達し、事務局と日本語学習支援チーム(担当)で1セットずつ保管・運用する体制を整備し、外国人への相談体制及び学習支援体制の強化が図られた。



★「日本語学習支援者スキルアップ講座(前半・後半)」の開催を通じた、既支援者の支援の質の向上

★「日本語学習支援者・入門講座(前半・後半)」の開催を通じ、道東地域における日本語学習支援人材の養成を図るとともに、同地域における多文化共生社会の担い手づくりに寄与する

世界の人のための JICA 基金活用事業

ちいさく ちいさく 地域で暮らす外国人のための

にほんご がくしゅうし えんしゃようせいこうぞ

日本語学習支援者養成講座

- 第1回目 -

【日時】令和5年10月28日(土) 13:30~16:30

【会場】釧路市交流プラザさいわい 207号室、208号室
(住所: 釧路市幸町9-1)

①「入門講座(定員30名)」 ※208号室
【対象】日本語学習支援に関わりたい方、最近日本語学習支援を開始された方、身近に外国人がいる方、興味・関心がある方など

②「スキルアップ講座(定員20名)」 ※207号室
【対象】過去に同種の講座を受講された方、すでに支援経験のある方、日本語教育分野の有資格者など

【講師】一般社団法人北海道日本語センター (二通・阿部・大井)

【参加費】無料

【申込方法】右側記載のQRコード(申込フォーム)から、
または釧路自主夜間中学「くろかい」事務局まで
<申込フォームURL>
<https://forms.gle/VFTasvqAB4LJSTPaA>

※本講座は以下のとおり計2回開催予定ですが、どちらか1回のみ参加も可能です。
・第1回目(理論編): 令和5年10月28日(土) ※本案内のとおり
・第2回目(実践編): 令和6年2月中旬に釧路市内で開催予定

※第1回目と第2回目の講座に参加された方には修了証をお渡しいたします。
※参加者には本講座で使用する教材を無料で提供いたします。

問合せ先: 釧路自主夜間中学「くろかい」事務局(佐藤)
TEL 090-9751-4194

世界の人のための JICA 基金活用事業

ちいさく ちいさく 地域で暮らす外国人のための

にほんご がくしゅうし えんしゃようせいこうぞ

日本語学習支援者養成講座

- 第2回目(実践編) -

【日時】令和6年2月17日(土) 9:30~12:30

【会場】釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞
(住所: 釧路市幣舞町4番28号)

①「入門講座(定員30名)」 ※学習室 705・706
【対象】令和5年10月実施の本講座「入門」(1回目)を受講された方、日本語学習支援に関わりたい方、身近に外国人がいる方、興味・関心がある方など

②「スキルアップ講座(定員20名)」 ※学習室 703
【対象】令和5年10月実施の本講座「スキルアップ」(1回目)を受講された方、すでに支援経験のある方、日本語教育分野の有資格者など

【講師】一般社団法人北海道日本語センター (二通・阿部・大井)

【参加費】無料

【申込方法】右側記載のQRコード(申込フォーム)から、
または釧路自主夜間中学「くろかい」事務局まで
<申込フォームURL(第2回目前編分)>
<https://forms.gle/ju4xT3TBJrm8dFCG9>

※本講座は以下のとおり2回の開催となりますが、どちらか1回のみ参加も可能です。
・第1回目(理論編): 令和5年10月28日(土) ※実施済み
・第2回目(実践編): 令和6年2月17日(土) ※本案内のとおり

※第1回目と第2回目の講座に参加された方には修了証をお渡しいたします。
※参加者には本講座で使用する教材を無料で提供いたします。

問合せ先: 釧路自主夜間中学「くろかい」事務局(佐藤)
TEL 090-9751-4194

<第1回：理論編>

日時：2023年10月28日（土） 13:30~16:30

会場：釧路市交流プラザさいわい（207号室：スキルアップ、208号室：入門）

参加者数：スキルアップ講座：15名、入門講座：30名

※釧路町、白糠町、厚岸町、中標津町、別海町、帯広市、足寄町、音更町からも参加あり



<第2回：実践編>

日時：2024年2月17日（土） 9:30~12:30

会場：釧路市生涯学習センターまなぼと（学習室703：スキルアップ、学習室705&706：入門）

参加者数：スキルアップ講座：17名、入門講座：37名

外国人協力者：11名 内訳：モンゴル（3）、ベトナム（2）、ミャンマー（2）、インドネシア（1）、ドイツ（1）、中国（1）、南アフリカ（1）

※釧路町、白糠町、厚岸町、弟子屈町、中標津町、帯広市、足寄町からも参加あり

※第1回及び第2回参加者（受講証明書受領者）：スキルアップ13名、入門15名



～ 日本語学習支援者養成講座（理論編・実践編）にて使用した教材 ～



（２）実施成果：

本事業の実施を通じ、1.（6）②に掲げた以下の目標を概ね達成することができた。

- ・日本語学習支援に関わる人材を養成・育成し、在住外国人等に対する道東地域の日本語学習支援の輪を広げる
- ・コミュニケーション支援ツールの導入及び学習教材の拡充により、日本語学習支援を必要としている者に対する支援の質の向上を図る
- ・道東地域における多文化共生社会の基盤作りに寄与する

日本語学習支援に関わる人材の養成・育成に関しては、通常の「くるかい」における日本語学習支援活動において、大学生を含む新たなメンバーの獲得に成功するとともに、チームティーチングの導入等により個々人の支援スキルが向上した。また、日本語学習支援者養成講座（計2回）の開催を通じ、道東一円から参加された延べ約100名（実人数71名）の日本語学習支援能力が向上した。

本事業により導入した支援ツール（ポケトーク）及び日本語学習支援教材の拡充により、日本語学習者及び日本語学習希望者（見学希望者）に対する支援の質が向上した。

釧路市以外にも、釧路町、白糠町、厚岸町、弟子屈町、中標津町、別海町、帯広市、足寄町、音更町からも講座受講者がおり、今後はこれら受講者が自らの生活圏において、日本語学習支援活動をはじめとする多文化共生の推進に寄与していくことが十分期待される。

（３）得られた教訓など：

今回の事業で実施した「日本語学習支援者養成講座」の主なターゲットエリアを釧路総合振興局内の1市6町1村、根室振興局内の1市4町とし周知活動を展開したが、会場手配を含む内部調整及び講師との調整等に時間を要し、ターゲットエリア内の市町村広報誌への掲載依頼が講座開催日の約1か月半前と遅くなってしまった。このため、既に締め切りを過ぎてしまっていたために掲載が叶わなかった自治体や既に紙面が埋まってしまっていたために掲載が叶わなかった自治体が出てしまった点は次回の企画等における教訓としたい。

また、本事業の担当者全員がボランティアであること、通常の活動が毎週火曜日（週1）のみであることなどから、互いが情報共有を図るための体制や遠隔で協議するためのコミュニケーションツール等に脆弱性があることがわかった。今後は担当チームごとのSNSやメーリングリスト等の積極的な活用を検討していくこととしたい。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

・中国人生徒及び母親への今後の支援について

今から約2年前に、両親（ともに中国人）の仕事の都合で中国から釧路市内に転入してきた中国人男子生徒（当時は中1）に対する日本語学習支援を開始。学習支援日は毎週火曜日（週1／長期休暇を除く）。会場は中学校側が放課後の図書館等を提供してくれることとなり、特例的に「くるかい」スタッフによる出前学習支援の形態で行った。はじめは日本語での意思疎通が全くできず、通訳可能な方に来てもらったり、多言語音声翻訳機や筆談を多用したり、工夫しながら日本語学習支援を行った。中学校3年生に進級後、本人・ご家族・学校側からの強い希望があり、時間を30分延長し2時間とした。前半を日本語、後半を高校受験対策に当てた。途中、生徒の母親（中国人）も日本語学習支援を希望し、複数回対応。約2年間の学習支援を行った結果、生徒の日本語を運用する力が向上し、当初合格は困難と思われていた高校受験では私立高校、次いで本人希望の公立高校にも合格。本人・ご家族及び学校側の期待に応えることができた。

令和6年4月に高校1年生となる、この中国人男子生徒及び母親から、引き続き「くるかい」での学習支援を受けたいとの希望があり、令和6年4月からは通常の会場（釧路市総合福祉センター内「会議室」）での学習支援を行っていく予定である。

・新たな外国人学習者への支援について

今回の事業で実施した「日本語学習支援者養成講座（実践編）」に外国人協力者として参加してくれた方が「くるかい」の活動見学に訪れ、日本語学習支援を受けたいとの申し出があった。この方は日本人と結婚し、日本滞在歴も約9年と長いですが、これまで日本語の学習を行っておらず、家庭での会話もほとんどなく、近所付き合いや親戚付き合いもしてこなかったことなどから、簡単な日本語での意思疎通は可能であるものの、平仮名も片仮名も読めず、日常生活にも支障が生じている状況となっていることから、「くるかい」ではこの方の学習支援を令和6年度（4月から）開始する方向で調整中である。なお、この方の支援に当たっては、本事業で調達した多言語音声翻訳機「ポケトーク」を活用するとともに、「日本語学習支援者養成講座」の受講者にも参画していただき、支援の輪を広げながら進めて行く予定である。

・講座参加者に対する「くるかい」の活動見学及び日本語学習支援機会の提供について

在住外国人の増加が見込まれる中、今後、様々な事情により「くるかい」で学習支援していくことになる在住外国人の増加も見込まれるため、「日本語学習支援者養成講座」の受講者に対し、「くるかい」で行っている日本語学習支援現場の活動見学について、提案・打診していく予定。また、見学に来ていただいた方（講座受講者等）には、学習者の同意を得られた場合、実際の日本語学習支援にも触れていただく機会を提供していく予定である。このように、日本語学習支援者の裾野を広げていければと考えている。

・今後の日本語学習支援者養成講座等の実施について

今回の「日本語学習支援者養成講座」に参加された方たちから、既に次回の講座開催についての要望が出ている状況である。このニーズに対し、今後「くるかい」において、ボランティアスタッフ（学習支援者）及び潜在的学習支援者層のスキルアップを図るための（あまり予算をかけずにできる）企画について、具体的に検討していくこととしたい。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

- ・日本語学習支援者養成講座の参加者から、また次回も参加したいと言われた。
- ・日本語学習支援者養成講座の外国人協力者から、また来週も参加したいと言われた。
- ・日本語学習支援者養成講座に参加した「くるかい」の代表、事務局長、学習支援者が、令和6年3月発行の釧路自主夜間中学「くるかい」文集に感想等を寄稿するなど、反響の大きさを窺い知ることが出来た。
- ・2年前に学習支援を開始した頃は日本語がまったくわからなかった中国人生徒（当時中1）が「くるかい」ボランティアスタッフによる日本語学習支援及び高校受験対策支援を受け、日本語の運用能力が向上していくとともに5教科の学力も少しずつ向上し、令和5年度中に受験した私立高校入学試験、公立高校入学試験のいずれにも見事合格することができた。本人及びご家族、学校側の期待に十二分に応えることができた。

(2) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

- ・当団体は非営利かつボランティアベースで、細々と活動を行っているが、JICA 基金を活用した本事業を行ったことで、当団体が行っている活動についての自信をつけることができた。
- ・本事業の実施を通じ、JICA や北海道日本語センターなどとの信頼関係を醸成することができた。
- ・本事業の実施を通じ、「くるかい」または他団体等が行う日本語学習支援に携わる可能性がある道東地域における潜在的ボランティア（日本語学習支援者）層の養成・育成を行うことができた。